

## 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果の概要について

福祉保健部介護高齢課

### 1 調査概要

#### (1) 調査目的

一般高齢者、要支援認定者、総合事業モデル事業者を対象に、日常生活圏域ごとに、地域の抱える課題の特定（地域診断）に資することなどを目的として実施

#### (2) 調査対象者【令和 2 (2020) 年 1 月 1 日現在】

##### ① 一般高齢者

市内在住で 65 歳以上の介護認定を受けていない人の中から 3,500 人を各圏域の在宅高齢者人口で按分し、任意抽出

##### ② 要支援認定者

要支援 1 から要支援 2 までの在宅の認定者 1,285 人（全数調査）

##### ③ 総合事業対象者

総合事業の事業対象者 50 人（全数調査）

#### (3) 調査期間

令和 2 (2020) 年 1 月 10 日から令和 2 (2020) 年 2 月 7 日まで

#### (4) 調査方法

郵送による配布・回収

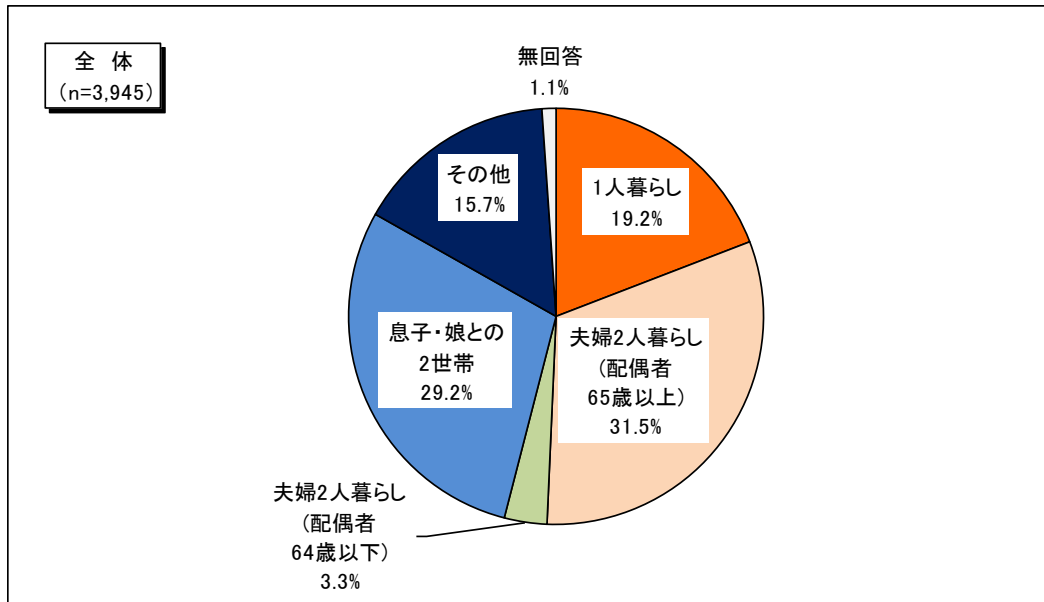
#### (5) 回収状況

配布数	(内訳)	回収数	有効票	無効票	有効回収率
4,835 枚	①一般高齢者 3,500 枚	3,974 枚	3,945 枚	29 枚	81.6%
	②要支援認定者 1,285 枚				
	③事業対象者 50 枚				

## 2 調査結果（概要）

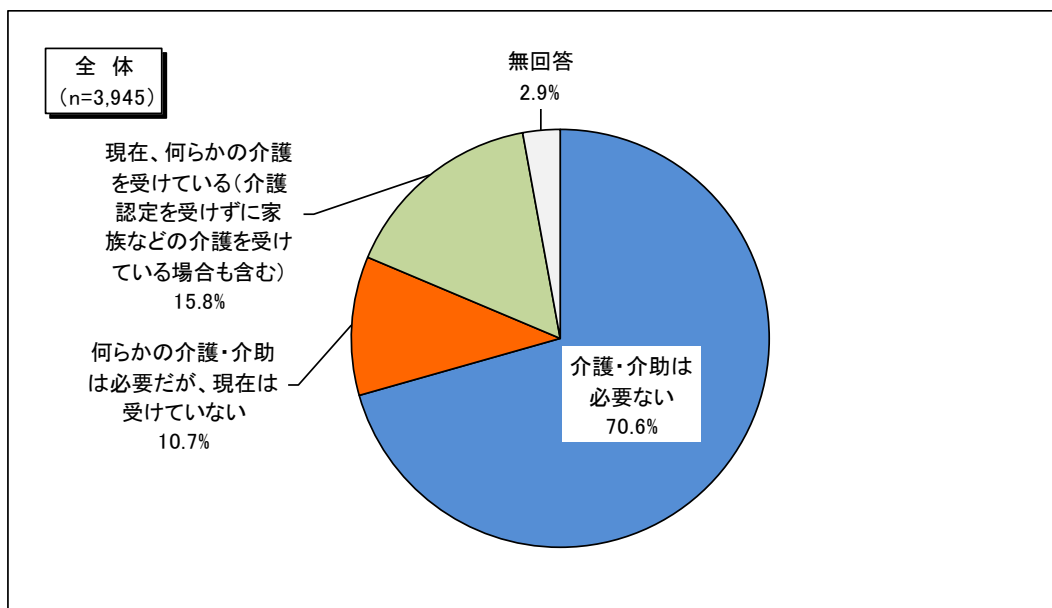
### (1) 家族構成

- 家族構成は、「夫婦2人暮らし(配偶者 65歳以上)」(31.5%) が最も多く、3割以上を占めています。次いで、「息子・娘との2世帯」(29.2%) が3割近くとなっています。



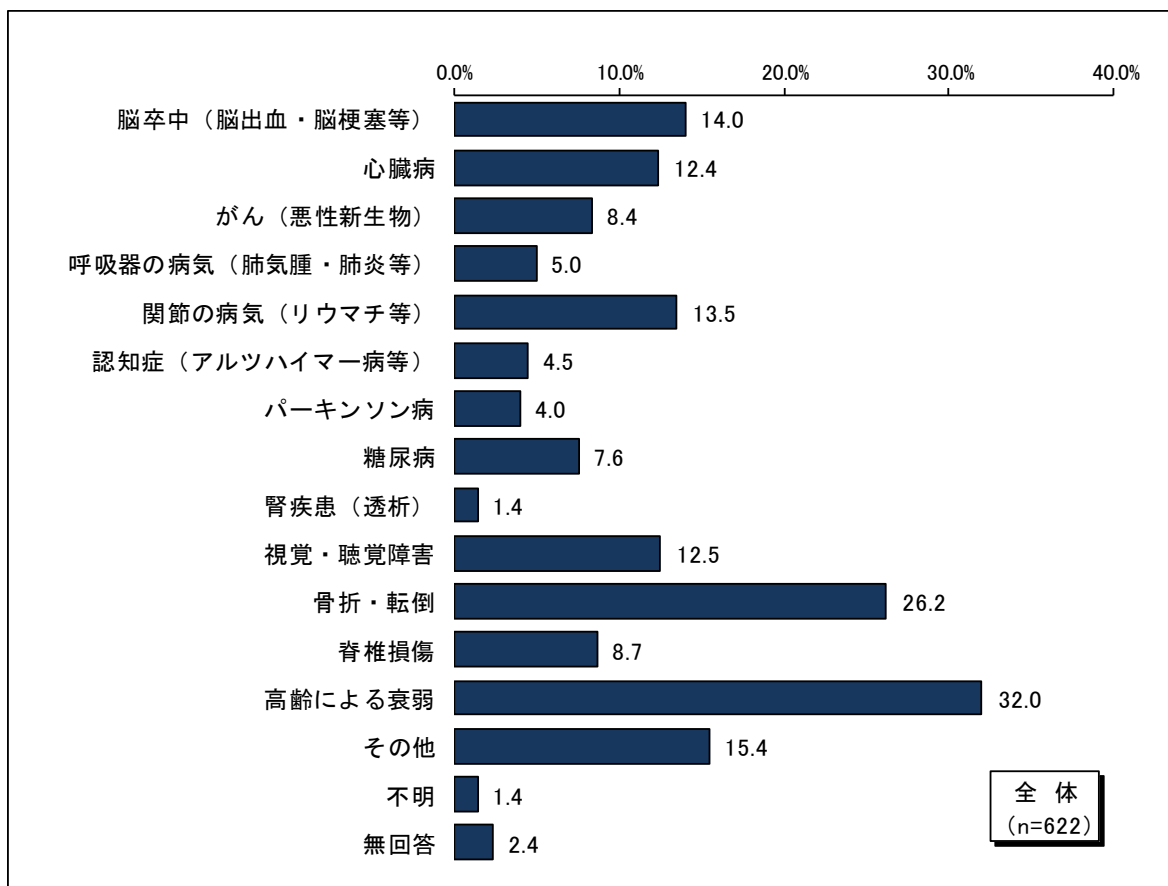
### (2) 普段の生活での介護・介助の必要性

- 普段の生活での介護・介助の必要性については、「介護・介助は必要ない」(70.6%) が最も多く、約7割を占めています。次いで、「現在、何らかの介護を受けている」(15.8%) となっています。



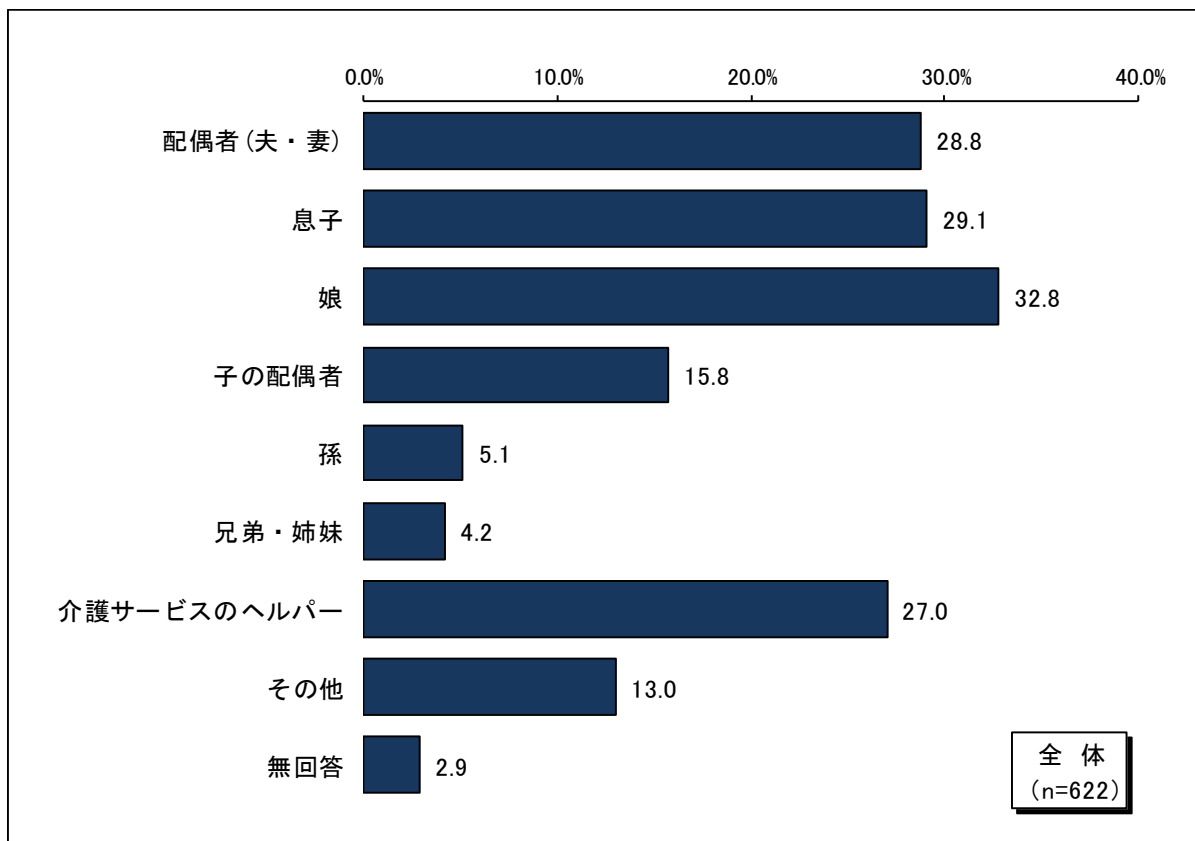
### (3) 介護・介助が必要になった主な原因

- 介護・介助が必要になった主な原因は、「高齢による衰弱」(32.0%)が3割強で最も多く、次いで「骨折・転倒」(26.2%)、「脳卒中(脳出血・脳梗塞)」(14.0%)、関節の病気(リウマチ等)」(13.5%)となっています。



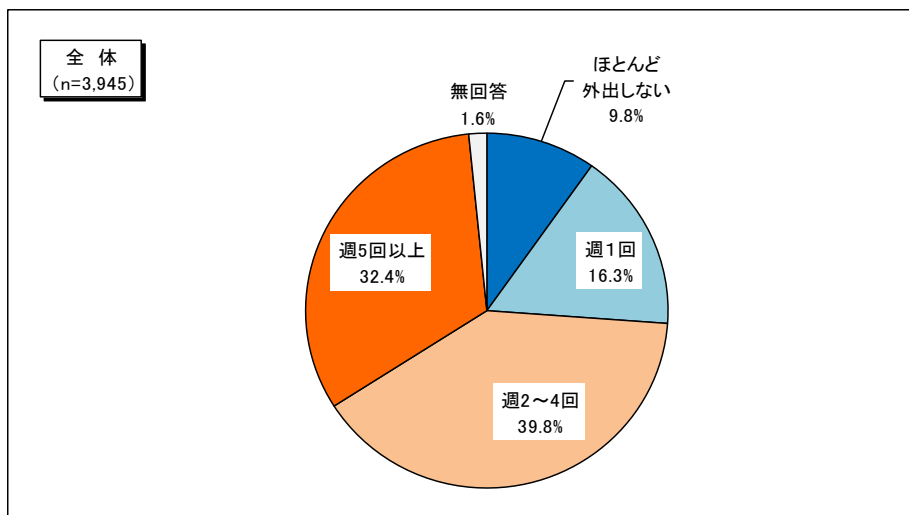
#### (4) 介護・介助を受けている人

- 主な介助者・介護者は、「娘」(32.8%)が3割強で最も多く、次いで「息子」(29.1%)、「配偶者(夫・妻)」(28.8%)、「介護サービスのヘルパー」(27.0%)となっています。



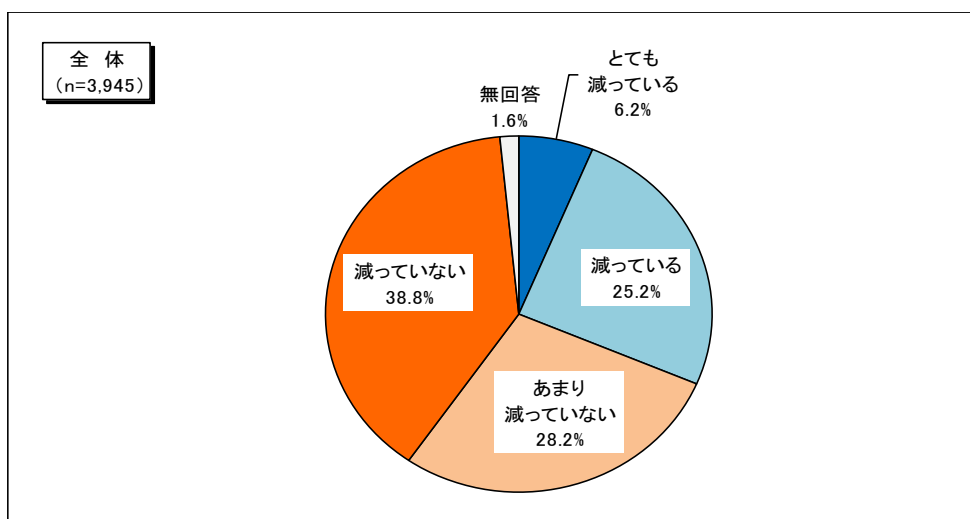
### (5) 週1回以上の外出状況

- 1週間あたりの外出回数は、「週2～4回」(39.8%)が最も多く、4割弱を占めています。次いで、「週5回以上」(32.4%)、「週1回」(16.3%)となっています。



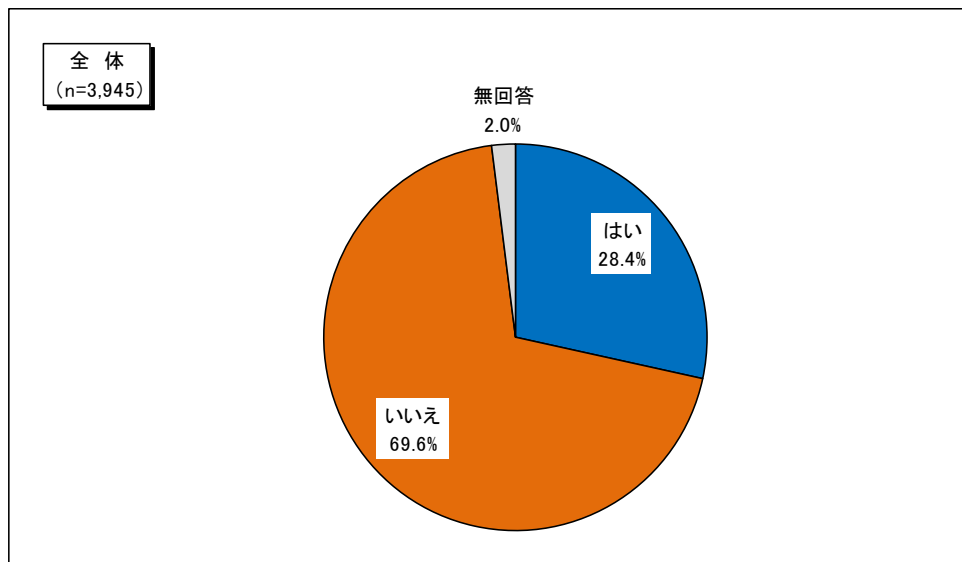
### (6) 昨年と比較した外出回数

- 「減っていない」(38.8%)が最も多く、「あまり減っていない」(28.2%)を合わせた『減っていない計』の割合は7割弱を占めています。
- 一方、『減っている計』(「とても減っている」+「減っている」)は3割強となっています。



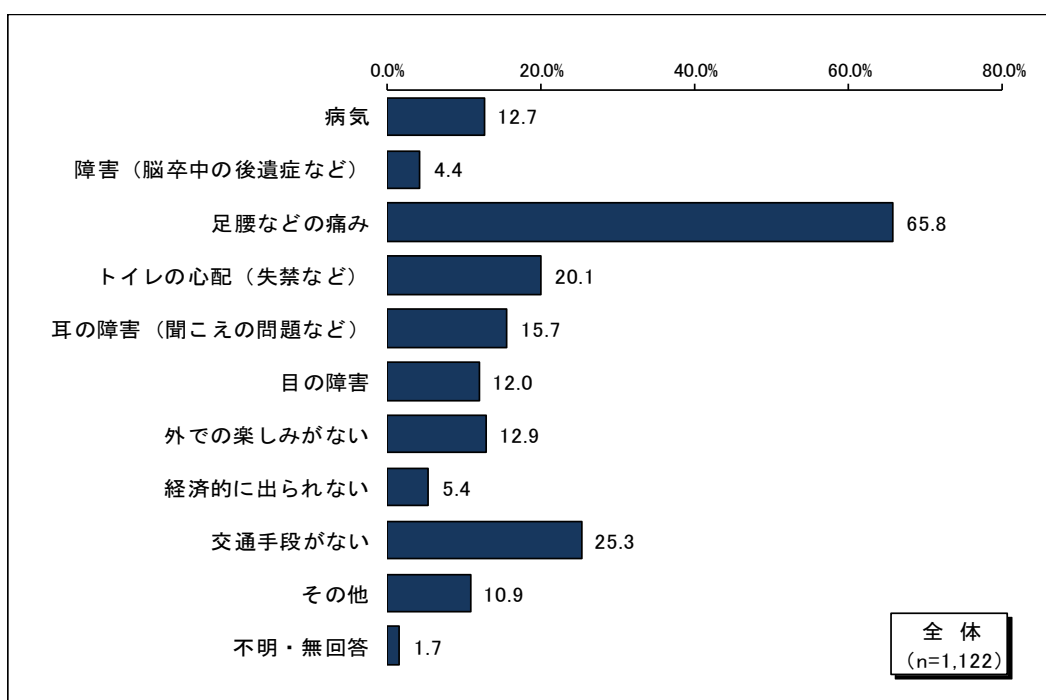
### (7)外出を控えているか

- 外出を控えているかについては、「いいえ」(69.6%)が最も多く7割弱を占めています。「はい」は3割弱となっています。



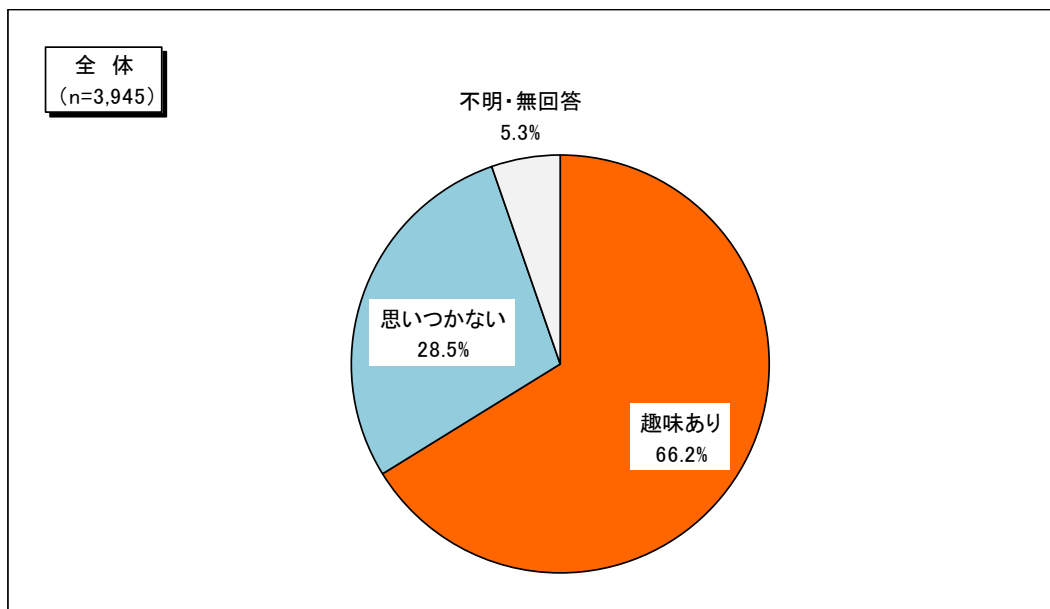
### (8)外出を控えている理由

- 外出を控えている理由は、「足腰などの痛み」(65.8%)が7割弱で最も多く、次いで「交通手段がない」(25.3%)、「トイレの心配(失禁など)」(20.1%)、「耳の障害(聞こえの問題など)」(15.7%)となっています。



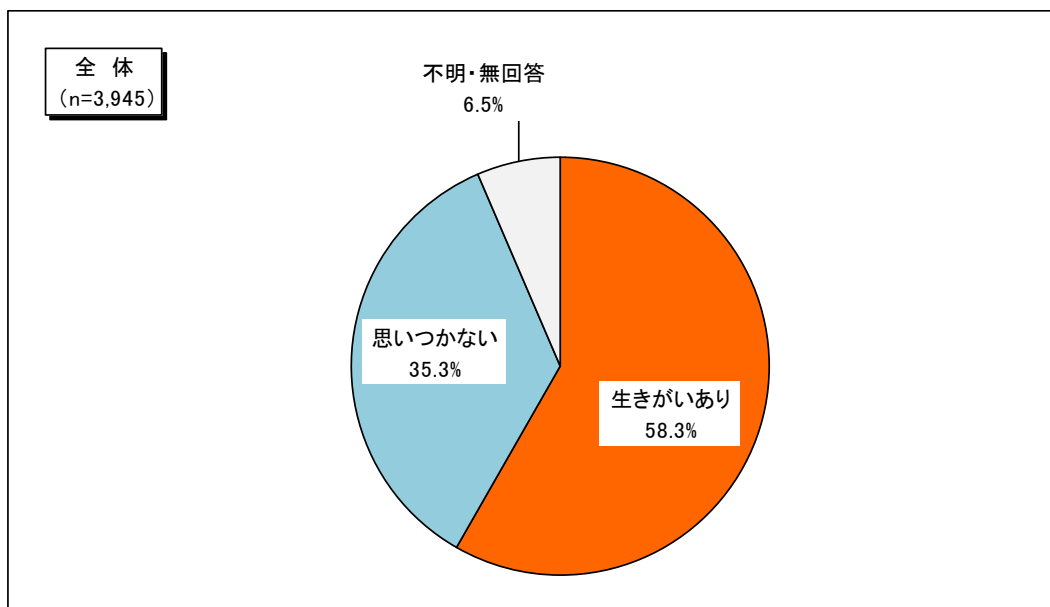
### (9) 趣味の有無

- 趣味の有無は、「趣味あり」(66.2%)が最も多く、約3分の2を占めています。「思いつかない」(28.5%)は3割弱となっています。



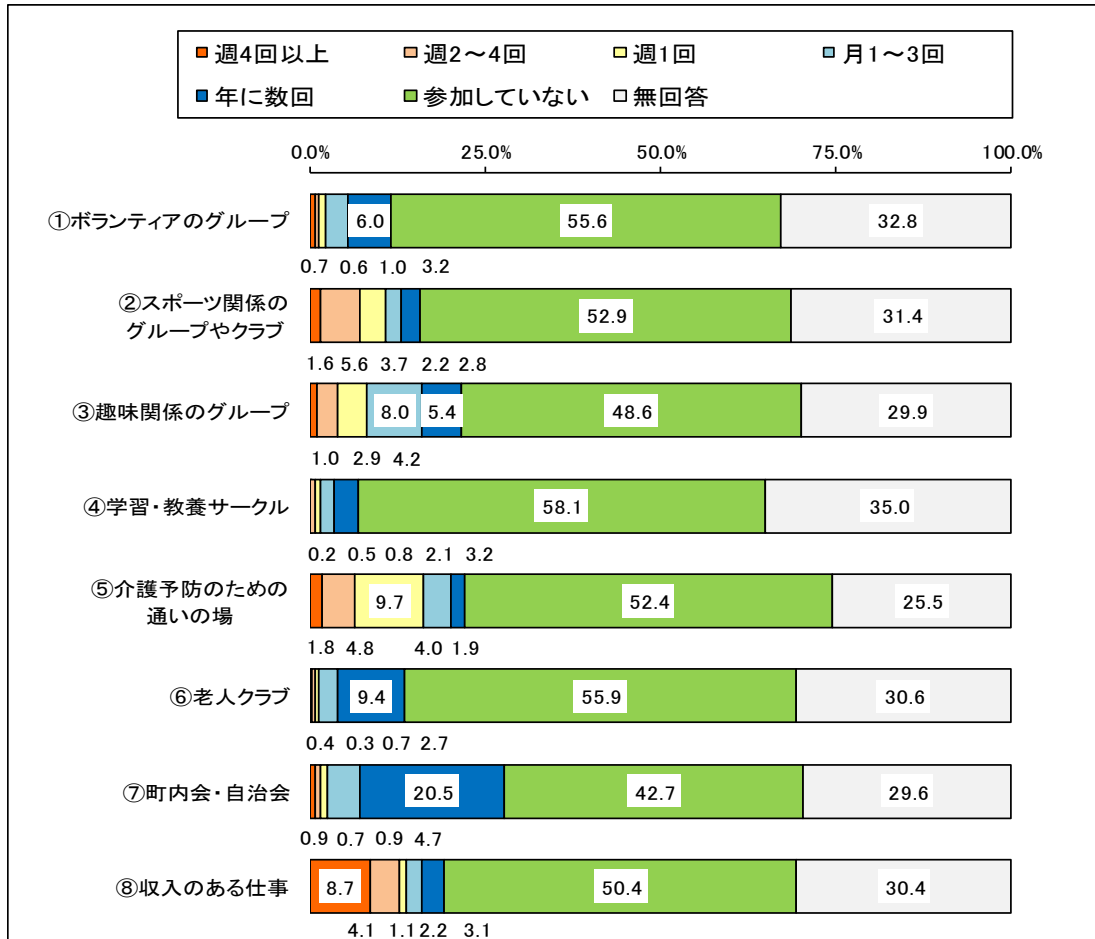
### (10) 生きがいの有無

- 生きがいの有無は、「生きがいあり」(58.3%)が最も多く、6割弱を占めています。「思いつかない」(35.3%)は約3分の1となっています。



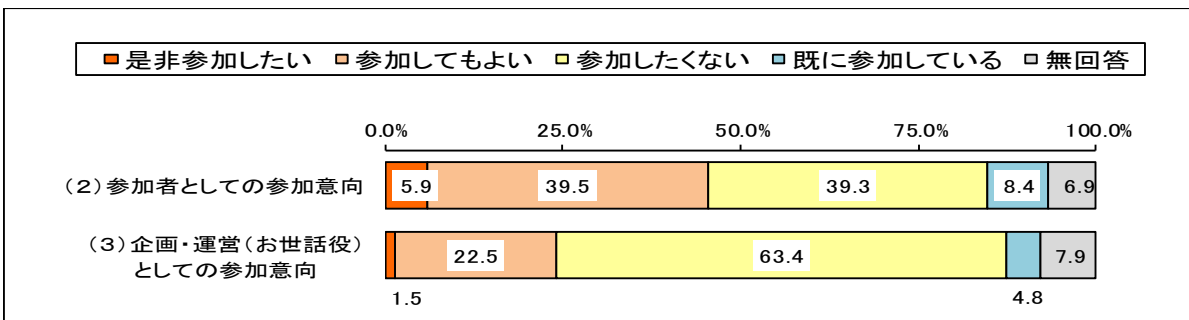
### (1.1) グループ等に参加する頻度

- グループ等への参加頻度については、全ての項目で「参加していない」が最も多く、4～5割を占めています。
- ⑤介護予防のための通いの場合は「週1回」(9.7%)の割合が高くなっています。また、⑦町内会・自治会では「年に数回」(20.5%)の割合が高くなっています。



### (1.2) グループ活動への参加意向

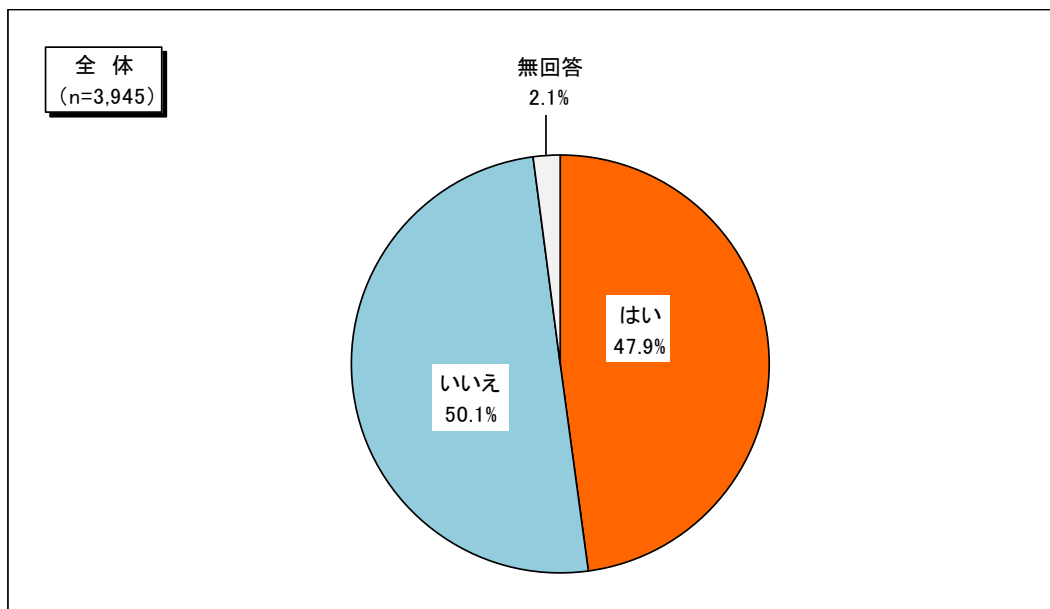
- グループ活動について、『(2)参加者としての参加意向』は、「参加してもよい」(39.5%)が約4割を占め、最も多くなっています。『(3)企画・運営(お世話役)としての参加意向』は「参加したくない」(63.4%)が6割強を占めています。





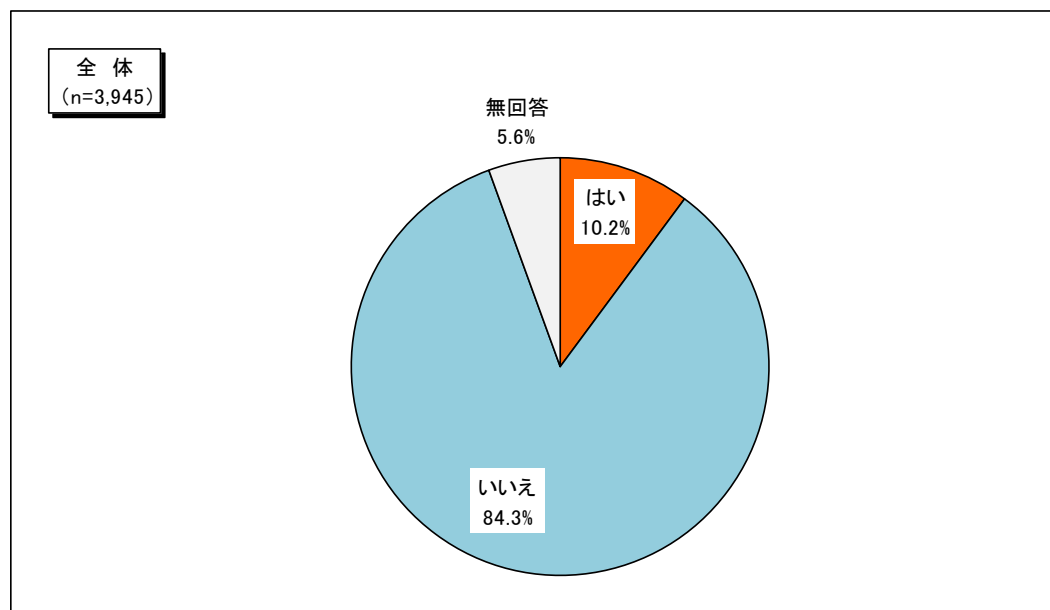
### (13)物忘れについて

- 物忘れが多いと感じるかについては、「いいえ」(50.1%)が最も多く、過半数を占めています。「はい」(47.9%)は5割弱となっています。



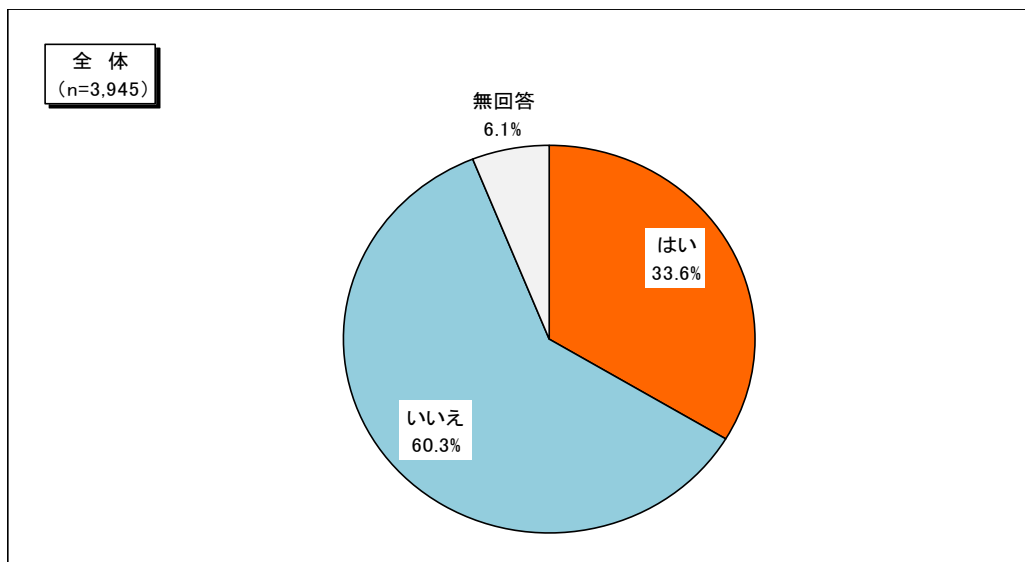
### (14)認知症状の有無

- 認知症状の有無は、「いいえ」(84.3%)が最も多く、8割強を占めています。「はい」(10.2%)が約1割となっています。



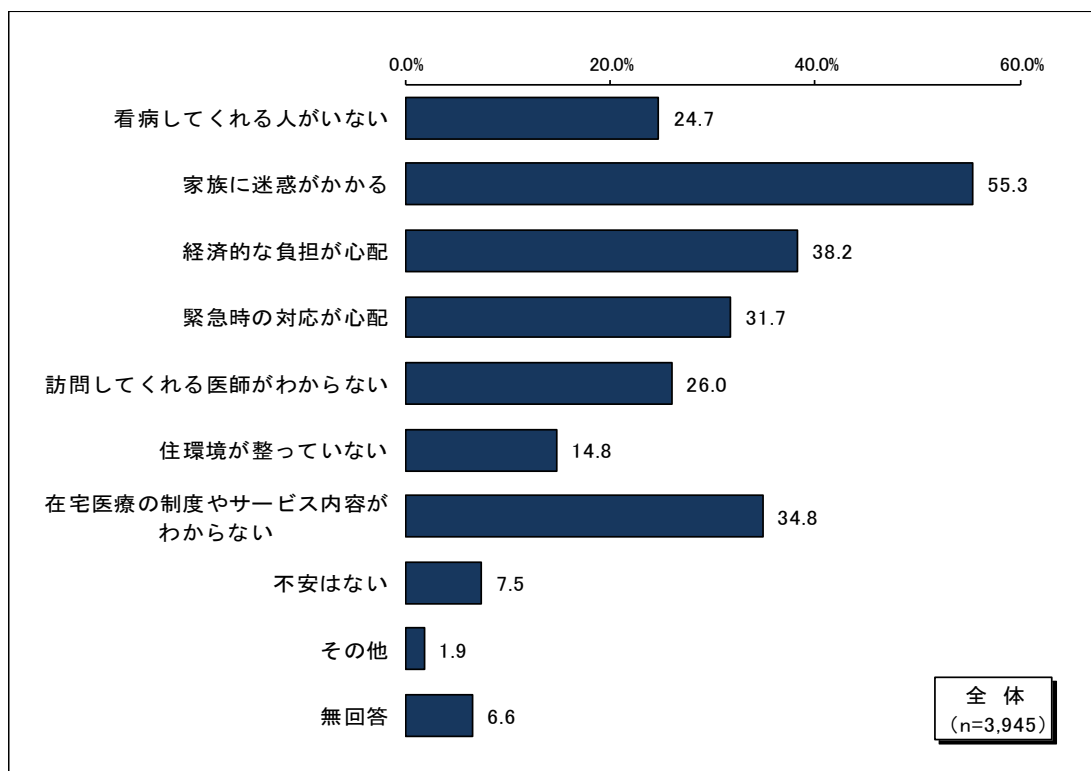
### (15) 認知症に関する相談窓口の認知

- 認知症に関する相談窓口を知っているかについては、「いいえ」(60.3%)が最も多く、6割強を占めています。「はい」(33.6%)が約3分の1となっています。



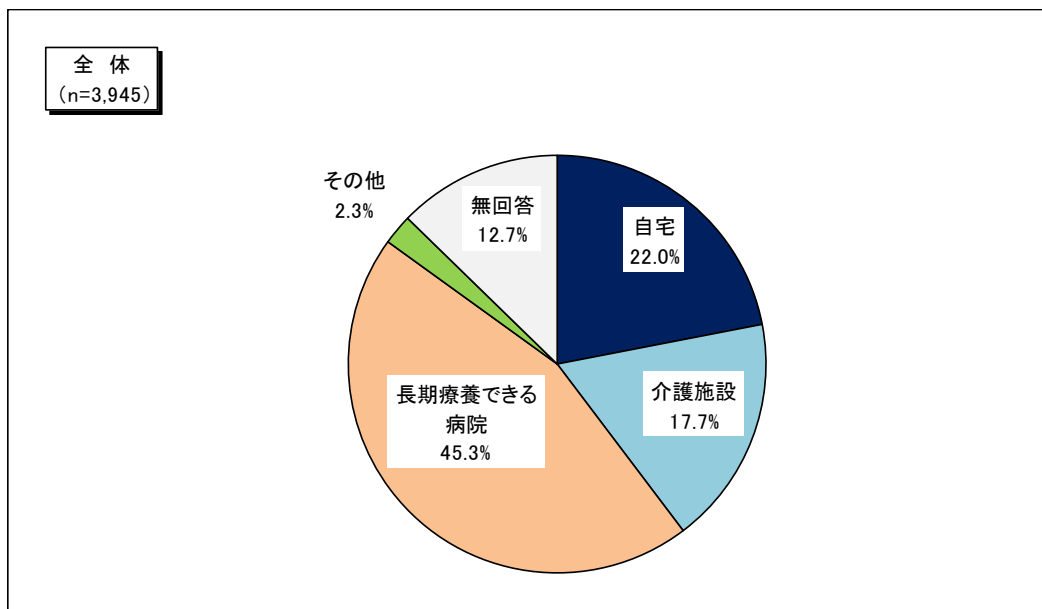
### (16) 在宅医療についての不安

- 在宅医療についての不安は、「家族に迷惑がかかる」(55.3%)が5割を超し最も多くなっています。次いで「経済的な負担が心配」(38.2%)、「在宅医療の制度やサービス内容がわからない」(34.8%)、「緊急時の対応が心配」(31.7%)となっています。



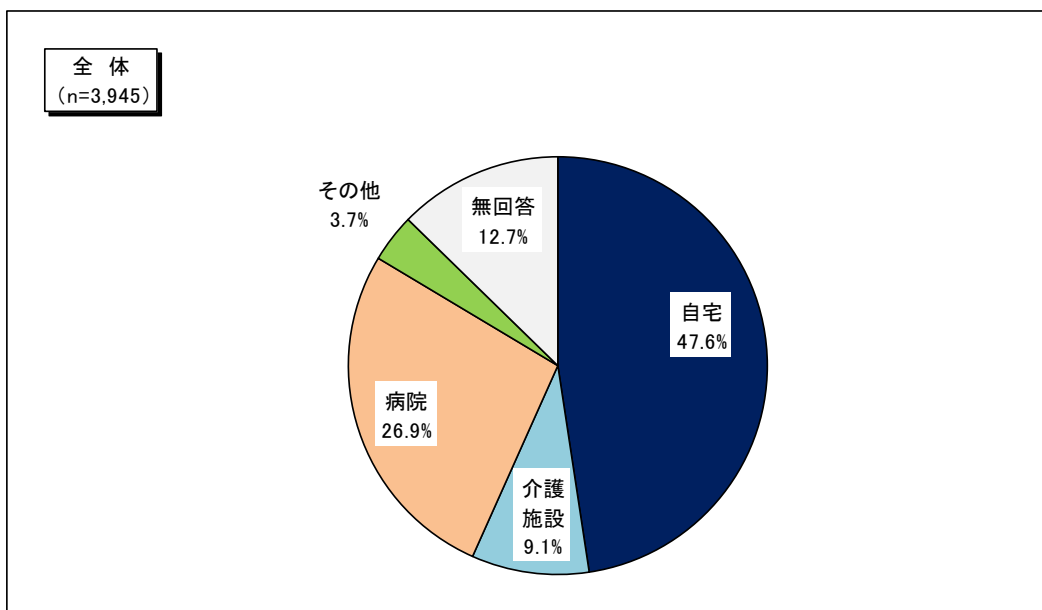
### (17) 長期医療で療養したい場所

- 長期医療で療養したい場所は、「長期療養ができる病院」(45.3%)が5割弱で最も多くなっています。次いで「自宅」(22.0%)、「介護施設」(17.7%)となっています。



### (18) 人生の最期（看取り）を迎えたい場所

- 人生の最期（看取り）を迎えたい場所は、「自宅」(47.6%)が5割弱で最も多くなっています。次いで「病院」(26.9%)、「介護施設」(9.1%)となっています。



### 3 圏域別各種リスク割合について

調査における基本項目の回答データを集計し、調査項目と回答状況に応じた判定方法を用いて、7つの指標別リスクに該当する者の割合を算出した結果は次のとおりです。

介護予防の視点において、圏域・年齢・性別ごとにリスク分布の特性や傾向を分析し、施策に展開することを目的としています。

#### ① 運動器機能リスク

<判定項目>

問番号	調査項目	回答	判定方法
問2 (1)	階段昇降	3. できない	3問以上で該当
問2 (2)	立ち上がり	3. できない	
問2 (3)	連続歩行 (15分)	3. できない	
問2 (4)	過去1年の転倒	1. 何度も or 2. 一度ある	
問2 (5)	転倒への不安	1. とても不安 or 2. やや不安	

<集計結果>

①運動器機能リスク (%)	柏崎市	中圏域	東圏域	西圏域	南圏域	北圏域
65歳以上70歳未満 (男)	0.4	0.4	0.3	0.2	0.7	0.4
70歳以上75歳未満 (男)	0.7	0.5	0.7	1.5	0.5	0.3
75歳以上80歳未満 (男)	0.7	1.0	0.7	0.4	0.5	1.1
80歳以上85歳未満 (男)	1.1	0.6	2.5	1.4	0.7	0.8
85歳以上90歳未満 (男)	1.1	1.0	2.0	1.2	1.1	0.6
90歳以上 (男)	0.3	0.4	0.2	0.3	0.2	0.3
65歳以上70歳未満 (女)	0.9	1.3	0.3	0.8	0.7	1.0
75歳以上80歳未満 (女)	1.7	1.7	1.2	2.3	1.6	1.5
70歳以上75歳未満 (女)	1.2	1.3	1.5	1.2	1.1	1.3
80歳以上85歳未満 (女)	2.1	1.7	2.2	2.6	1.4	2.5
85歳以上90歳未満 (女)	2.4	2.8	2.9	2.5	2.1	2.0
90歳以上 (女)	1.3	1.0	1.7	1.1	1.8	1.1
リスクあり高齢者割合 (合計)	13.9	13.7	16.2	15.5	12.4	12.9

<主な傾向>

- ・ 該当者の市全体平均は 13.9% となっています。
- ・ 圏域別では東圏域が 16.2% と市平均と比較して高くなっています。
- ・ 年齢及び性別では、男性は東圏域で 80 歳を境に急増している他は全年代とも大きな差が見られないのに対し、女性は加齢に伴い 85 歳頃までに割合が増加する傾向がみられます。

## ② 咀嚼機能リスク

<判定項目>

問番号	調査項目	回答	判定方法
問3 (2)	固いもの食べにくさ (半年比)	1. はい	該当

<集計結果>

②咀嚼機能リスク (%)	柏崎市	中圏域	東圏域	西圏域	南圏域	北圏域
65歳以上70歳未満 (男)	3.0	2.6	3.4	2.0	4.4	2.9
70歳以上75歳未満 (男)	3.3	4.4	3.0	2.4	4.6	2.5
75歳以上80歳未満 (男)	2.8	3.0	2.9	2.9	1.9	3.4
80歳以上85歳未満 (男)	2.4	1.5	4.9	1.8	2.1	2.9
85歳以上90歳未満 (男)	1.6	0.6	2.8	1.5	1.9	1.6
90歳以上 (男)	0.6	0.9	0.6	0.7	0.2	0.4
65歳以上70歳未満 (女)	2.7	2.3	1.6	2.6	2.9	3.4
70歳以上75歳未満 (女)	3.5	3.6	3.3	3.8	2.8	3.8
75歳以上80歳未満 (女)	3.1	3.0	1.8	4.4	1.9	3.5
80歳以上85歳未満 (女)	3.0	3.0	2.8	3.3	2.9	2.7
85歳以上90歳未満 (女)	2.2	2.8	2.2	2.1	1.9	1.8
90歳以上 (女)	1.1	1.0	1.3	0.9	1.4	0.9
リスクあり高齢者割合 (合計)	29.3	28.7	30.6	28.4	28.9	29.8

<主な傾向>

- ・ 該当者の市全体平均は 29.3% となっています。
- ・ 圏域別では大きな差はみられませんでした。
- ・ 年齢及び性別では、男女比での大きな差はみられませんが、80歳未満の該当割合が比較的高い状況にあります。

## ③ 閉じこもりのリスク

<判定項目>

問番号	調査項目	回答	判定方法
問2 (6)	週1回以上の外出	1. ほとんど外出ない or 2. 週1回	いずれかで該当

<集計結果>

③閉じこもりのリスク (%)	柏崎市	中圏域	東圏域	西圏域	南圏域	北圏域
65歳以上70歳未満 (男)	0.9	1.6	0.5	0.4	0.8	1.2
70歳以上75歳未満 (男)	1.1	1.5	0.7	1.1	0.8	1.3
75歳以上80歳未満 (男)	0.9	0.7	1.0	0.6	1.1	1.2
80歳以上85歳未満 (男)	1.1	0.9	1.7	1.1	0.9	1.0
85歳以上90歳未満 (男)	1.3	1.2	2.0	1.3	1.1	1.3
90歳以上 (男)	0.4	0.6	0.2	0.4	0.2	0.5
65歳以上70歳未満 (女)	1.1	1.0	1.1	1.0	1.1	1.1
70歳以上75歳未満 (女)	1.2	1.5	2.1	1.1	0.6	1.2
75歳以上80歳未満 (女)	2.2	1.9	2.8	1.7	1.7	3.0
80歳以上85歳未満 (女)	2.5	1.9	2.8	2.2	2.2	3.2
85歳以上90歳未満 (女)	2.4	2.4	3.4	2.1	2.5	2.4
90歳以上 (女)	1.3	0.9	2.5	1.1	1.7	1.1
リスクあり高齢者割合 (合計)	16.4	16.1	20.8	14.1	14.7	18.5

<主な傾向>

- ・ 該当者の市全体平均は 16.4%となっています。
- ・ 圏域別では東圏域が 20.8%、北圏域が 18.5%と市平均と比較すると割合が高くなっています。
- ・ 年齢及び性別では、男性に比べ女性の該当割合が高くなっています。特に75歳以上の女性の該当割合が高くなっています。男性よりも外出時の移動手段の選択肢が少なく、行動範囲が狭まっているなどの要因が考えられます。

#### ④ 認知症リスク

<判定項目>

問番号	調査項目	回答	判定方法
問4(1)	物忘れが多い	1. はい	該当

<集計結果>

④認知症リスク (%)	柏崎市	中圏域	東圏域	西圏域	南圏域	北圏域
65歳以上70歳未満 (男)	4.6	4.5	5.2	3.8	6.3	3.9
70歳以上75歳未満 (男)	4.4	4.3	3.6	3.9	5.5	4.4
75歳以上80歳未満 (男)	3.6	3.7	4.6	2.7	3.1	4.5
80歳以上85歳未満 (男)	3.4	2.7	5.7	3.3	2.9	3.4
85歳以上90歳未満 (男)	1.8	1.5	1.7	2.1	1.7	1.9
90歳以上 (男)	0.6	0.7	1.0	0.7	0.2	0.5
65歳以上70歳未満 (女)	5.5	5.7	3.9	5.4	5.7	6.2
70歳以上75歳未満 (女)	5.8	5.8	5.1	6.7	5.9	4.8
75歳以上80歳未満 (女)	4.9	4.9	5.0	5.1	4.5	4.8
80歳以上85歳未満 (女)	4.3	4.1	4.7	4.7	3.4	4.5
85歳以上90歳未満 (女)	3.5	3.1	5.8	3.9	2.5	3.0
90歳以上 (女)	1.4	1.0	2.4	1.2	1.7	1.0
リスクあり高齢者割合 (合計)	43.8	42.0	48.7	43.5	43.4	42.9

<主な傾向>

- ・ 該当者の市全体平均は 43.8%となっています。
- ・ 圏域別では東圏域が 48.7%と、突出して高い結果となっています。
- ・ 年齢及び性別では、全体的に男性より女性のリスク割合が高い傾向にあります。また、全体的に75歳未満の方が75歳以上の方に比べ比較的割合が高い傾向があります。

## ⑤ うつリスク

<判定項目>

問番号	調査項目	回答	判定方法
問 7 (3)	1 か月間で気分の沈み、ゆううつな気持ちあり	1. はい	いずれか1つで該当
問 7 (4)	1 か月間で興味がわからない、心から楽しめない気持ちあり	1. はい	

<集計結果>

⑤うつリスク (%)	柏崎市	中圏域	東圏域	西圏域	南圏域	北圏域
65歳以上70歳未満 (男)	4.5	3.3	6.0	4.8	6.1	3.1
70歳以上75歳未満 (男)	4.5	4.5	3.6	4.3	5.7	4.3
75歳以上80歳未満 (男)	2.6	3.3	2.9	1.9	2.9	2.5
80歳以上85歳未満 (男)	2.1	1.7	3.1	2.4	1.7	2.1
85歳以上90歳未満 (男)	1.0	1.1	1.5	1.1	0.9	0.8
90歳以上 (男)	0.4	0.5	1.1	0.4	0.2	0.1
65歳以上70歳未満 (女)	5.2	5.0	3.4	5.7	5.3	5.6
70歳以上75歳未満 (女)	4.3	4.6	3.1	5.2	4.6	3.3
75歳以上80歳未満 (女)	3.7	3.6	1.1	5.5	3.1	3.6
80歳以上85歳未満 (女)	2.5	3.1	2.3	2.4	1.9	2.7
85歳以上90歳未満 (女)	2.1	2.5	1.7	2.7	2.0	1.3
90歳以上 (女)	1.0	1.1	1.3	0.9	0.8	1.1
リスクあり高齢者割合 (合計)	33.9	34.3	31.1	37.3	35.2	30.5

<主な傾向>

- ・ 該当者の市全体平均は 33.9%となっています。
- ・ 圏域別での大きな差異はみられませんでした。
- ・ 年齢及び性別では、男女とも年代が若いほどリスクが高い割合となっています。若い年代ほど心理的負担のかかる場面が多いなどの要因が考えられます。

## ⑥ IADL (手段的日常生活動作) の低下

<判定項目>

問番号	調査項目	回答	判定方法
問 4 (2)	一人で外出 (バス・電車 等)	1. できるし、している or 2. できるけどしていない	項目毎にいずれかを選択した場合を1点とし、3点以下で該当
問 4 (3)	自分で買い物	1. できるし、している or 2. できるけどしていない	
問 4 (4)	自分で食事の用意	1. できるし、している or 2. できるけどしていない	
問 4 (5)	自分で請求書の支払い	1. できるし、している or 2. できるけどしていない	
問 4 (6)	自分で預貯金のお出し入れ	1. できるし、している or 2. できるけどしていない	

<集計結果>

⑥IADLの低下 (%)	柏崎市	中圏域	東圏域	西圏域	南圏域	北圏域
65歳以上70歳未満 (男)	0.6	1.3	0.5	0.2	0.4	0.4
70歳以上75歳未満 (男)	0.6	0.6	0.6	0.7	0.8	0.1
75歳以上80歳未満 (男)	0.3	0.4	0.1	0.2	0.3	0.6
80歳以上85歳未満 (男)	0.4	0.5	0.2	0.6	0.4	0.3
85歳以上90歳未満 (男)	0.5	0.3	0.3	0.7	0.5	0.4
90歳以上 (男)	0.2	0.1	0.2	0.3	0.2	0.3
65歳以上70歳未満 (女)	0.1	0.2	0.1	0	0	0.3
70歳以上75歳未満 (女)	0.2	0.2	0.5	0.2	0	0.1
75歳以上80歳未満 (女)	0.2	0.3	0.1	0.4	0.1	0.2
80歳以上85歳未満 (女)	0.7	0.8	1.0	0.7	0.3	0.6
85歳以上90歳未満 (女)	1.3	1.0	2.5	0.9	1.2	1.4
90歳以上 (女)	0.9	0.9	1.8	0.7	0.9	0.7
リスクあり高齢者割合 (合計)	6.0	6.6	7.9	5.6	5.1	5.4

<主な傾向>

- ・ 該当者の市全体平均は 6.0% となっています。
- ・ 圏域別では東圏域が 7.9% と他の圏域に比べて高くなっています。
- ・ 年齢及び性別では、男性は年代別での差異はさほどみられないのに対し、女性は加齢に伴い該当する割合が高くなる傾向があり、80歳以上から顕著になっています。

⑦ 転倒リスク

<判定項目>

問番号	調査項目	回答	判定方法
問 2 (4)	過去 1 年間の転倒経験	1. 何度も or 2. 一度ある	いずれかで該当

<集計結果>

⑦転倒リスク (%)	柏崎市	中圏域	東圏域	西圏域	南圏域	北圏域
65歳以上70歳未満 (男)	2.5	2.1	2.6	2.5	2.3	3.2
70歳以上75歳未満 (男)	2.6	2.0	3.9	2.8	2.8	2.2
75歳以上80歳未満 (男)	2.5	2.7	3.5	1.9	1.8	3.0
80歳以上85歳未満 (男)	2.3	1.6	2.8	2.1	2.2	2.9
85歳以上90歳未満 (男)	1.6	1.4	2.0	1.5	1.6	1.4
90歳以上 (男)	0.4	0.6	0.7	0.3	0.2	0.5
65歳以上70歳未満 (女)	3.2	3.8	2.1	2.8	4.5	2.8
70歳以上75歳未満 (女)	3.4	2.8	2.6	3.6	4.2	3.4
75歳以上80歳未満 (女)	3.0	3.4	2.5	3.1	3.1	2.4
80歳以上85歳未満 (女)	2.9	2.9	3.5	3.1	1.7	3.4
85歳以上90歳未満 (女)	2.3	2.5	3.7	2.3	1.7	1.8
90歳以上 (女)	0.9	0.9	1.3	0.7	1.2	0.7
リスクあり高齢者割合 (合計)	27.6	26.7	31.2	26.7	27.3	27.7



<主な傾向>

- 該当者の市全体平均は 27.6%となっています。
- 圏域別では東圏域が 31.3%と、全圏域で唯一 30%を超えています。
- 年齢及び性別では、男女とも比較的若い年代で数値が高くなっていますが、元々の行動範囲や移動回数などの量的要因で転倒のリスクが上がっている事も想定されます。

## 4 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果からみえる課題

### ◆世帯の状況や社会情勢に応じた体制づくり

家族構成についてみると、「1人暮らし」と「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」の割合の合計は50.7%と半数を超える割合となります。今後、高齢化の進行に伴い、高齢者の単身世帯や、夫婦ともに高齢者の世帯はますます増えていくことが予測されます。1人暮らしの高齢者や、日中独居状態となる高齢者の身体状況の重度化も想定されることから、そうした方や世帯の状況の把握に努めるとともに、地域での見守り体制を充実していくことが重要であると考えられます。

一方、現在のコロナ禍においては、高齢者の安心につながるサービスをいかに維持・継続していくかが課題となっています。特に、新型コロナウイルスの感染防止の観点から、訪問型のサービスや民生委員による聞き取り等のやり方については、改めて検討する必要もあると考えられます。

### ◆閉じこもりによるリスクと対策

1週間あたりの外出回数についてみると、「ほとんど外出しない」と「週1回」の割合の合計は、26.1%となっています。さらに、昨年と比較した外出回数について、「とても減っている」と「減っている」の割合の合計は、31.4%となっています。このことから、閉じこもり傾向のある高齢者が少なからず存在していることがうかがえます。

コロナ禍の影響により、閉じこもり傾向はますます進んでいくものと考えられますが、外出を控えることは体力や認知機能の低下などを引き起こす可能性があります。今後は、閉じこもりによるリスクを啓発するとともに、家にいながらにしてできる運動や電話等を通じた人との交流など、心身の健康の維持と意識付けを促進する必要があります。また、これらの取組は、フレイルの予防につながると考えられます。

### ◆認知症についての啓発活動

物忘れが多いと感じると回答した方は半数近くとなっています。このことから、認知機能に低下のみられる、認知症リスク高齢者が少なからず存在していると考えられます。

また、認知症状がある方の割合は10.2%で1割程度となっていますが、認知症に関する相談窓口を知っている方の割合は33.8%となっており、自身に認知症の症状がなくても相談窓口を知っている方がいることがわかります。

認知症に関する相談窓口について、引き続き周知を行うとともに、高齢者を対象とした認知症の予防活動や、地域住民を対象とした認知症者の見守りなど、地域が一体となって認知症に関する啓発活動に取り組んでいくことが今後とも重要であると考えられます。

### ◆生きがいの創出

「趣味あり」と回答した方の割合は 66.2%、趣味が「思いつかない」と回答した方の割合は 28.5%となっています。一方、「生きがいあり」と回答した方の割合は 58.3%、生きがいが「思いつかない」と回答した方の割合は 35.3%となっています。このことから、趣味のある方と比較して、生きがいのある方が少ないことがうかがえます。

またこの1か月間で気分が沈んだりしたことがあった方の割合は 34.5%、物事に対して興味がわからないことがあった方の割合は 24.3%となっています。

定年を迎えた高齢者や、子どもが独立した高齢者は、生きがいを失ってしまう傾向にあるといわれています。こうした中で、高齢者自身が住み慣れた地域でいきいきとした生活を継続していくためにも、日常の中に生きがいを創出していくことが重要であると考えられます。

### ◆地域住民による地域活動の活性化

地域で実施されている活動や、開催されているグループ等への参加頻度についてみると、いずれの活動・グループにおいても「参加していない」の割合が高くなっています。一方、地域住民の有志によるグループ活動への「参加者」としての参加意向について、「是非参加したい」と「参加してもよい」の割合の合計は 45.4%となっています。また、「企画・運営（お世話役）」としての参加意向について、「是非参加したい」と「参加してもよい」の割合の合計は 24.0%となっています。

このような結果から、柏崎市には住民有志の活動に対して意欲的な高齢者が一定割合存在していることがわかります。今後は、いかにこうした方々と地域活動を活性化していき、地域のつながりを強くしていくかが重要であり、また、そうした取組は、高齢者の生きがいの創出につながると考えられます。